



専用端末を使うテレビ会議と異なり、PCとソフトウェア、インターネットで使えるWeb会議が注目を集めている。資料共有の自由度の高さと多機能さもテレビ会議にない特徴だ。左上はジャパンメディアシステムの「LiveOn」の利用イメージ。右上は、HD画質に対応したOKIの「Visual Nexus」。左下はID型とルーム型両形態での提供と低価格が魅力の「SaaSBoard」(ニューロネット)。右下は、多彩な料金プランとエコノミーノイズキャンセラ機能搭載が特徴の「MeetingPlaza」(NTTアイティ)

注目高まる映像コミュニケーション

Web会議選びのポイント

「テレビ会議と何が違うのか」「製品の種類が多すぎる」「どの機能を重視して選ぶべきか」等々、Web会議の導入・選択に苦慮するユーザーが少なくない。特徴を整理しながら、選択のポイントを解明しよう。 文◎坪田弘樹(本誌)

遠隔地とコミュニケーションを行う場合に、Web会議は非常に有効なツールである。

ひと言で言えば、Web会議は映像と音声の交換、資料データやアプリケーションの共有、テキストチャットといった複数の機能を統合したコミュニケーションツールと表現できよう。しかも、PCとWebブラウザ、インターネット環境さえあれば利用可能で、場所の制約も少ない。専用端末を用いるテレビ会議システムの

代替として普及・発展してきた経緯から、現状では会議室で使われているケースが多いが、それだけでなく、共同作業を行うさまざまな場面で活用できる。

遠隔会議システムの導入効果については、いまさら細かく説明する必要はないだろう。移動・出張に伴う費用と時間が削減できて、意思決定・業務遂行のスピードが上がる。Web会議を上手に活用すれば、これらの効果を「会議」だけでない幅広

い場面で享受できる。

では、Web会議をうまく使いこなすためにはどうすればいいのか。基本的な機能と特徴を抑えながら解明していこう。

テレビ会議とはここが違う

Web会議って、なに? —

「テレビ会議の廉価版」というイメージも根強い現状を鑑みれば、まずはそこから話を進める必要があるだろう。テレビ会議(本稿では、専用端末を使うものを一律にこう呼ぶことにする)との違いを整理することで、Web会議の特徴がつかめる。

まず、導入コストと導入スピード

が大きく異なる。PCにWebカメラ、会議用マイクスピーカーやヘッドセットを接続し、インターネット経由で使えるため、端末・ネットワークともに既存設備を最大限活用できる。周辺機器も1台当たり、Webカメラやヘッドセットは数千円から、会議用マイクスピーカーも数万円から揃えられる。また、ASP/SaaS型のWeb会議を既存PCと回線で使うのであれば、1週間程度で利用開始できるケースもある。

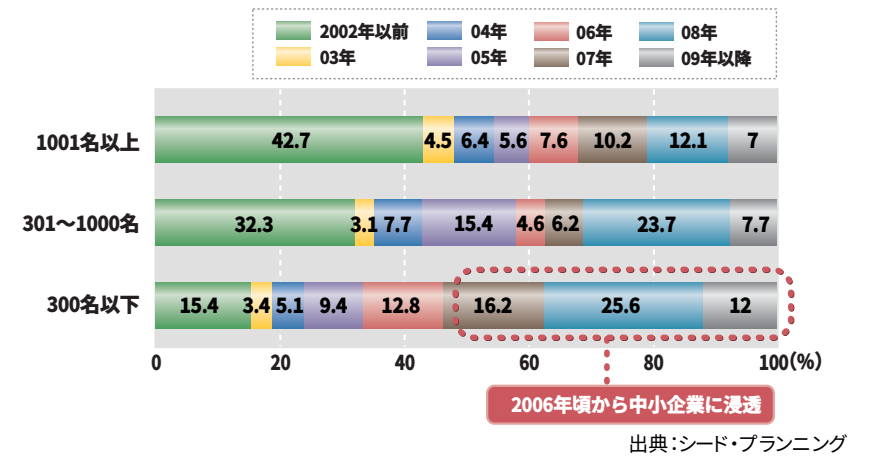
“得意技”も異なる。テレビ会議が高機能なカメラと広帯域かつ安定した回線を使って、実際に対面しているような臨場感を再現することを得意とするのに対し、Web会議の真骨頂は「資料共有」にある。PC内のデータを参加者全員のPCに表示したり、ファイルを転送したり、あるいはアプリケーションごと共有して複数の端末から編集したりといったことが自在に行える。「Web会議は会議ツールではなく、コラボレーション(共同作業)ツールである」と言われるのは、これが所以だ。

繰り返しになるが、場所の制約を受けづらい点も大きな違いだ。会議室に据え置くしかないテレビ会議とは異なり、自席でも、ノートPCを持ち運べば空きスペースでも、外出先や在宅環境でも利用できる。また、社員同士のみならず、インターネット経由で外部とのコミュニケーションにも利用できる。

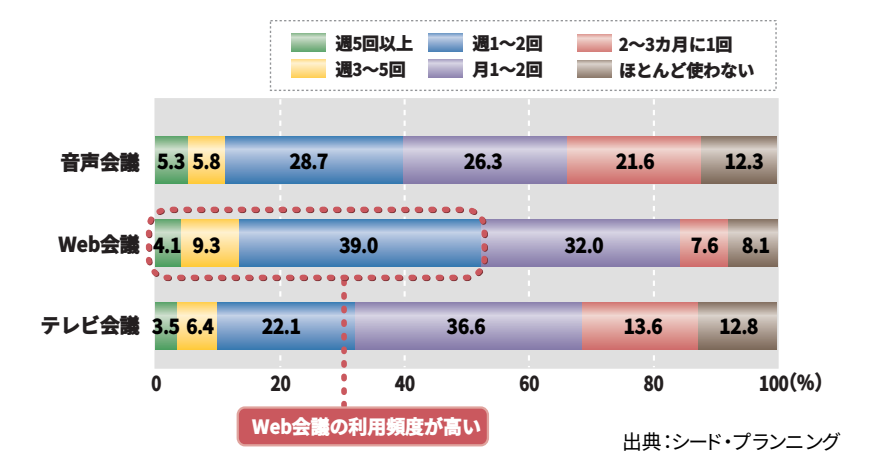
キーワードは「外と使う」

こうした特徴を活かし、最近では社員教育や研修、あるいはセールスや

図表1 テレビ会議/Web会議/音声会議の会社規模別導入時期



図表2 テレビ会議/Web会議/音声会議のタイプ別利用頻度



サポートといった場面での活用が増えている。

「LiveOn」を開発・販売するジャパンメディアシステム(JMS)・代表取締役社長の富樫泰章氏は、「特に金融や流通のお客様が多拠点を結んで研修に使われるケースが増えている」と語る。「MeetingPlaza」を提供するNTTアイティのMeetingPlaza事業部・営業部部長の石上拓磨氏も、「今は『外と使う』がキーワード。メーカーが販売店向けの新商品説明会に使ったり、営業マン相手の販売セミナーを行ったりする。サービス

業などでは、お客様と直接やり取りもしている」と話す。

「WebEx」を提供するシスコシステムズ・コラボレーションソフトウェアグループの内田耕太郎マーケティングマネージャによれば、「国内のある大手メーカーでは、Web会議で採用面接を遠隔で行っている」という。また「WebExの営業は、地方のお客様についてはほとんど現地に行かず、WebExで商談をしている」そうだ。

ユーザー動向に詳しい、シード・プランニングの原健二主任研究員(エレクトロニクス・ITチーム 2Gリ